

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)

個人研究

2017年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職	氏名
	異文化コミュニケーション学部・教授	細井 尚子 印
研究課題	ポスト・グローバリゼーション時代の大衆演劇ー日本・台湾の「小芝居」文脈の芸態からー	
研究期間	2017年度	
研究経費 (1円単位)	(支出金額) 1,000,000円 / (採択金額) 1,000,000円	

研究の概要(200~300字で記入、図・グラフは使用しないこと)

東アジアは曾て「近代日本」に覆われた空間・時間を共有し、その時空間の芸態は東京を実験場に実体化した近代国家日本の文化コード(仮称「東京文化コード」)との折り合いをつけねばならなかったため、娯楽市場のソフト(演目・演技・演出等)における現代は近代とは地続きだが、近世とは断絶がある。グローバル化が進んだ現在、娯楽市場にみられる現象は歴史的に芸態の階級性が弱かった台湾の娯楽享受の形と共通する。大衆のものであるために近代に軽視された日本と台湾の「小芝居」文脈の芸態に着目し、経済活動(「興行」)も視野に含め、ポスト・グローバリゼーション時代の大衆演劇について、代表者の専門である演劇学の枠組で取り組んだ。

キーワード(研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[東アジア] [「東京文化コード」(仮称)] [「小芝居」系芸態]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究プロジェクトは個人研究であるが、研究協力者と連携して当初の計画に従い、東アジアのポスト・グローバリゼーション時代における娯楽商品としての大衆演劇の実像について解明するための基礎作りとして、日本と台湾の「小芝居」文脈の芸能の属性、及びそれを見る時間を売買する興行という経済活動、観劇行為の視点を設け、そこから把握し得るポスト・グローバリゼーション時代の娯楽市場との親和性などを抽出すべく、以下の5項目の活動を行った。

1) 日本の「小芝居」文脈の芸能調査

① 文献資料による調査…「小芝居」と総称された芸能の種類、各々の形成の背景、演者・演者集団組織

→図書館等収蔵資料、購入資料、インタビュー資料の他、下記③でインタビュイーから譲渡して頂いた資料により、基礎的理解を得た。

② 明治以降の演劇取締関連規制の詳細、「小芝居」を演じる空間の大きさ、設備等

→主として関連の文献資料より基礎的理解を得たが、下記③で得た聞き取り調査からも情報を得た。

③ フィールドワーク、インタビュー…インタビュイー：節芝居時代から続く劇団（演者・演者集団）、観客

→インタビューは節芝居時代から続く劇団のほか、(1)「近代日本」による政策面で台湾と類似する面があった沖縄の、王家の一族による武術本部流と沖縄芝居・舞踊、及び(2)「小芝居」の位置づけではないが、その演技・演出・作品群が大衆的な映画・「小芝居」文脈にある演劇にも大きな影響を与えた「新国劇」の後継者にも複数回ずつ行った：

(1) 琉球舞踊は本来琉球王府の外交の具で、中国からの使節の応接や薩摩藩への御膳進上の際に、高位の士族が演じたもので、専門の演者はいなかった。琉球王府が閉じた後、外交の具の中の舞踊と組踊は、収入源を失った下級武士が糊口を凌ぐ手段として継承し、娯楽市場で大衆向けに発展させた。なぜ高位の士族のみが外交のために習得した芸能を下級武士に教授したのか。身分制の整った琉球王朝の遺風の中で行われたこの継承は大きな謎のままであり、また、外交の具であったものを大衆向けに演じるに際し、どのような変化・加工が施されたのかという検証も十分ではない。本研究プロジェクトでは、舞踊と組踊りの民間化が「東京文化コード」と折り合いをつける時期であること、娯楽市場においてこれらから沖縄芝居が形成され、それと小芝居系芸能に共通性があることから、この2つの問題についても取り組み、下級武士に教えた王族とされる松島親雲上朝董の本部家が伝承する琉球王府の武術本部流に注目、インタビューと資料収集を行った。また前身研究の対象の1つであった沖縄芝居の関連資料も補充し、本部流が有段者のみに伝授する舞踊演目について、二代流派である玉城流、渡嘉敷流のそれとの比較検討により、その身体性から継承と大衆化の問題に取り組める段階まで、準備を整えることが出来た。

(2) 「新国劇」は澤田正二郎が坪内逍遙の文芸協会附属演劇研究所から芸術座を経て創設した劇団で、「右に芸術、左に大衆」を掲げ、新しい演劇の創出を目指した。ゆえに「小芝居」系ではないが、熱狂的に支持され、経営的にも立つことが出来た演技・演出技法、作品群は映画・「小芝居」系芸能に強い影響を与えた。後継団体である劇団若獅子より、上演台本、プログラム、新聞記事などの資料を譲り受け、分析・検討を進めている。

2) 台湾の「小芝居」文脈の芸能調査

・研究協力者による文献資料に基づくデータ収集

・研究協力者と共同フィールドワーク、インタビュー…インタビュイー：劇団（演者・演

研究成果の概要 (つづき)

者集団)、観客

→夏季に派遣研究員として台湾で研究活動を行った際に収集した情報・形成したネットワークを用いて、本研究課題に関連する資料の収集を行った。

3) 「小芝居」文脈の芸能の属性の抽出

・ 1)2)で収集した資料の分析→演者・演者集団、演じるもの、演じ方、観客など分類ごとに属性を抽出・研究協力者との意見・情報交換、討論

→2017年11月及び2018年2月の研究協力者招聘による研究会と研究セミナー、2017年12月及び2018年2・3月に台北芸術大学で開催した東アジア大衆演劇研究会の会合で研究協力者と情報共有、意見交換を行った。

4) 日本の「小芝居」文脈の芸能の興行調査

・ フィールドワーク、インタビュー…公演場所の決定、上演料の決定など
・ 関連資料収集

→東京大衆演劇協会会長にインタビュー、関連資料を譲り受け、整理中である。

5) 台湾の「小芝居」文脈の芸能の興行調査

・ フィールドワーク、インタビュー…公演場所の決定、上演料の決定など。インタビュー：劇団他

・ 関連資料収集

→研究協力者と共に進行中である。

上記の研究活動を行うにあたり、資料収集・インタビュー調査・研究交流・中間成果報告等を目的とする出張は7回(内3回は台湾)、収集資料の分析結果などの情報共有、分担テーマの中間成果報告を目的とする研究協力者の招聘は2回計4名、研究協力者と情報共有・意見交換を行った研究会は9回実施した。また、公開型の研究セミナー2回、国際論壇の企画・実施1回、国際論壇への招待講演は1回であった。

本研究プロジェクトは、前身研究である科研基盤研究C「東アジア文化圏大衆文化における『近代』—『少女歌劇』系芸能から—」(課題番号 26370115 代表者細井尚子 平成26~28年度)で得た成果と課題を基に、「東アジアのポスト・グローバリゼーション時代における娯楽商品としての大衆演劇の実像について解明するための基礎作り」を果たすべく、研究活動を展開した。その過程で得た「小芝居」文脈の芸能の属性、興行の実体と特性、ポスト・グローバリゼーション時代の娯楽市場との親和性などに関する仮説、見解、問題点等は研究会などの場で関連分野の研究者との研究交流、意見交換も行い、妥当性の検証を進めている。単年度では十分な検証に基づく論文執筆まで至らなかったが、次への展開のための基礎作りはほぼ整ったと考えている。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

③

立教大学アジア地域研究所主催研究セミナー、於立教大学池袋キャンパス：

第 1 回 2017 年 11 月 20 日 「台湾の大衆演劇空間における異文化とその受容」

簡秀珍氏 (台湾国立台北芸術大学伝統音楽院・研究協力者)

「天勝一座の上演—20 世紀前半の演芸潮流の関係から—」

許書惠氏 (台湾国立台北芸術大学戯劇学院・研究協力者)

「“大衆演劇” —民族誌的方法による観察と報告」

第 2 回 2018 年 2 月 24 日 「演劇事象にみられる異文化受容としての翻案・翻訳」

石婉舜氏 (台湾国立清華大学台文研究所・研究協力者)

「テキストの文脈と文化翻訳：林搏秋作『鬪雞』の地方色と風格形式」

洪榮林氏 (アジア地域研究所特任研究員・韓国延世大学・研究協力者)

「韓国近代楽劇の発展と変化」

台北芸術大学主催・立教大学アジア地域研究所、立教 SFR 共催

2017 年 12 月 9 日・10 日 於台北芸術大学

「東亜大衆戯劇研究国際論壇 歌・舞・戯—大衆演劇的魅力」(企画を共同担当)

邱坤良 (台北芸術大学・研究協力者) 「東亜舞臺の戯曲元素轉借與創作——以《月夜流光》為探討中心」

輪島裕介 (大阪大学・研究協力者) 「演歌は『演じる歌』か？：流行歌と大衆演劇のミッシング・リンク」(演歌是種『表演的歌曲』？：流行歌與大眾演劇中的音樂歌曲)

細井尚子 (立教大学・研究代表者) 「近代化とグローバル化—『翻案』から考える大衆娯楽研究試案」(近代化與全球化——試從『翻案』思考大眾娯楽研究)

海震 (中国戯曲学院・研究協力者) 「『語内翻譯』、『符際翻譯』與舞臺、銀幕之間——楊門女將戯劇的四種改編／翻案」

張啓豊 (台北芸術大学・研究協力者) 「改編／提問——從白蛇傳版本衍異談起」

台湾彰化県政府・文化局主催・実施機関財団法人頼和文教基金会

2018 年 1 月 27 日 於台湾・彰化県立図書館演講庁

「『台湾新劇与時代精神』—台日文化論壇」

細井尚子 (立教大学・研究代表者) 「日本的『小劇場運動』与『小劇場』」

④

細井尚子 「近代化與全球化——試從『翻案』思考大眾娯楽研究」

「東亜大衆戯劇研究国際論壇 歌・舞・戯—大衆演劇的魅力」

台北芸術大学戯劇学院 2017 年 12 月 9 日

細井尚子 (立教大学・研究代表者) 「日本的『小劇場運動』与『小劇場』」

「『台湾新劇与時代精神』—台日文化論壇」 pp.92-97

台湾彰化県政府・文化局 2018 年 1 月 27 日